

(別紙1)

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	地球・地域とつながる共生ライブ(平和と平常への光 編)		
申請大学・高校等名	大学及び 高校等名	兵庫県立尼崎北高等学校	
	活動 グループ名	芸術鑑賞部	参加学生 等人数 96名
指導責任者名 及び連絡先	学部・学科等 名称		
	責任者氏名	吉田英一	連絡先 電話番号
	E-mail		
協働する市民活動団 体及び代表者名	団体名	うさぎ屋、あまがさき環境オープンカレッジ	
	代表者氏名	伴 あい子 大原 一憲	連絡先 電話番号
	E-mail		
教育・研究活動 目標	<p>本校は「地球・地域とつながる尼北」をスローガンとし、芸術鑑賞部も地域密着型の軽音楽活動やボランティア活動に力を入れ、本事業1年目の令和元年度は、子ども食堂を中心に多くのイベントを企画、幼児から高齢者まで多くの市民と交流させていただきました。</p> <p>ところが令和2年度、3年度は、コロナによる休校、イベント自粛、子ども食堂閉鎖で、従来の活動が壊滅的打撃を受け、小規模な工作教室や軽音教室に加えて、動画配信などに活路を見いだして、新しい生活様式での市民との支え合いを模索しました。</p> <p>令和4年度は、長引くコロナの制約の中で平常の活動への光が見え始め、小規模演奏、こどもライブ、工作教室の計画を立てており、それを実施してゆきたいと思っております。</p>		
活動内容及び 実績、評価	<p>1.活動内容及び実績</p> <p>(1) こども食堂交流会</p> <p>こども食堂「うさぎ屋さん」に小学生を迎えに行き、本校で音楽や工作を楽しんだ。</p> <p>企画・運営は部員と小学生の話し合いで行った。</p> <p>① 8月…うさぎ屋さんを訪問。打合せ。部員4名。</p> <p>② 9月…参加児童13名、部員18名。輪ゴム鉄砲作り。</p> <p>③ 10月…参加児童8名、部員26名。楽器体験。</p> <p>④ 11月…参加児童3名、部員13名。紙飛行機作り、楽器体験。</p> <p>⑤ 1月…参加児童6名、部員18名。楽器体験。</p> <p>⑥ 3月…参加児童6名、部員17名。分光器作り、楽器体験。</p> <p>(2) こどもライブ</p> <p>幼稚園児・保育園児対象のライブ。選曲やゲームなど、部員のみで企画。</p> <p>① たちばなこどもライブ…7月。参加園児82名、部員41名。</p> <p>② つかぐちこどもライブ…12月。参加園児48名、部員35名。</p> <p>(3) 市民向け演奏</p> <p>コロナから光が見え始め、生のライブで交流させていただいた。</p> <p>① 立花南生涯学習プラザ開館セレモニー…4月。参加部員25名。</p> <p>バンドとアコースティック演奏。</p> <p>② エコあまフェスタ…6月。エンディングで「地球を愛せ」を演奏。</p> <p>音楽室で終日演奏。参加部員50名。</p> <p>③ 立花ユースライブ…8月。参加部員25名。</p> <p>④ 小田アコースティックライブ…8月。小田南生涯学習プラザ。参加部員8名。</p> <p>⑤ 小田アコースティックライブ…9月。小田南生涯学習プラザ。参加部員10名。</p> <p>⑥ たちばな祭…11月。演奏と他の出演者の音響を計画していたが参加取り止め。</p> <p>⑦ 小田はるらんまんライブ…3月。参加部員12名。</p>		

- ※ 立花南生涯学習プラザ1周年イベント(次年度の4月2日)の準備。
- (4) 演奏動画…高齢者・幼児向け動画を YouTube アップ。  
 コロナにより交流が難しかった2年間、演奏動画の配信を模索していたが、これを継続し、本校公式の YouTube「尼北ちゃんねる」に、高齢者向けの懐メロや幼児向けのアニメソングなどをアップさせていただいた。
- ① アニメソング  
 ・虹(ドラえもん) ・私は最強(ワンピース) ・新時代(ワンピース)  
 ・風になる(猫の恩返し) ・ムーンライト伝説(セーラームーン) ・銀河鉄道 999
- ② 懐メロ  
 ・名もなき詩(ミスチル 1996) ・空も飛べるはず(スピッツ 1994)  
 ・ギザギザハートの子守歌(チェッカーズ 1984)
- ③「エコあまフェスタ」ライブ映像  
 ・ツバメ(ミドリーズ) ・地球を愛せ
- (5) 他校軽音楽部との地域交流活動情報交換
- ① 柴島高校ライブ…11月。オリジナルの「地球を愛せ」を演奏し、エコスクール尼北、尼北環境類型、環境イベントへの参加をPR。
- ② 咲くやこの花高校ライブ…3月。オリジナルの万博応援ソングを演奏し、音楽で地域を盛り上げようと合意。
- (6) 軽音教室(楽器体験)  
 昨年度までに行った「こどもけいおん教室」や「大人軽音教室」を、今年度も行いたかったが、平常への移行で生演奏のイベントが増えた結果、手が回らなかった。  
 ただし、4月の立花南生涯学習プラザ開館セレモニーで、空き時間にこどもたちに楽器を体験してもらった。
- (7) 工作教室  
 紙飛行機と分光器の作り方を説明していっしょに作って遊んだ。
- ① あまきたこうさく教室…8月。ワークショップ形式。参加児童 25 名。部員 15 名。  
 ② 科学の祭典兵庫大会神戸会場…9月。ブース形式。約 100 名。部員6名。  
 ③ 尼崎市民まつり…10月。ブース形式。約 100 名。部員9名。  
 ④ たちばな祭…11月。参加取り止め。
- (8) 地域清掃  
 初回のみ、挨拶を兼ね、塚口西住宅自治会、環境類型1年1組と合同で行う。  
 2回目以降は街角美化の効率を上げるため、同時に行わず、別日程で独自に実施。
- ① 4月…部員 15 名参加。  
 ② 12月28日…歳末大掃除。部員 20 名参加。  
 ③ 1月…部員 30 名参加。  
 ④ 3月…部員 30 名参加。
- (9) その他  
 ① 水堂きつずくらぶ…7月。参加部員4名。小学生に勉強サポート。  
 他のボランティアと話し合い。楽器体験を提案。
- (10) 活動報告  
 ① FMあまがさき…5月。前年度報告と本年度計画。  
 ② 尼崎市民まつり…10月。上半期活動報告スライドショー。  
 ③ FMあまがさき…11月。上半期報告と下半期計画。  
 ④ 活動報告会…3月24日。重層的支援推進課、地域課、社協、こども食堂、環境OCなど関係者を招いて。  
 本年度報告、次年度計画、各団体の説明、意見交流など。
- ⑤ 活動報告動画…10月と3月末。YouTube「あまきたチャンネル」にアップ。  
<https://www.youtube.com/channel/UCCo7Yg3lyhltYUbxObQibJg>
- ⑥ 活動報告書…3月。本報告書。写真は⑦に掲載。
- ⑦ 尼崎北高校公式HP…随時更新。芸術鑑賞部の紹介ページ。  
 「芸術鑑賞部」でググると1位でヒット。  
[https://www.hyogo-c.ed.jp/~amakita-hs/intro/club/light\\_music.html](https://www.hyogo-c.ed.jp/~amakita-hs/intro/club/light_music.html)
- ⑧ 活動報告冊子…未定。昨年度まで活動報告会ができなかったため出していたもの。
- (11) 想定していた活動成果に対する達成度合い

① 達成できたこと

コロナからの解放で、こども食堂交流事業やエコあまフェスタが3年ぶりに再開。  
立花南生涯学習プラザ開館記念行事を皮切りにマスク着用などの制限付きで市民  
向け演奏も再開。

部員達が待ちに待った幼稚園ライブも再開。

他校との交流も可能となり、地域交流への思いを共有した。

活動報告をする機会も増えた。

コロナ時に身につけた、分散しての地域清掃、昭和曲の動画配信も継続した。

工作教室も、全県的なイベントも加えて、昨年度以上に実施できた。

水堂きつずくらぶなど、新しい可能性も模索できた。

② 達成できなかったこと

他が忙しすぎて、過去に好評だった軽音教室が企画できなかった。

懸案としていた高齢者との交流に踏み込むことができなかった。

4. 学生等の学習意欲・地域に対する考え方の変化

(1) 学生

① ほとんどの交流イベントが、コロナにより2年ぶり、3年ぶりとなり、部員は完全に世代  
交替しているため実質的にゼロからの再出発となったが、フィードバックを素直に受け止  
め、回を追う毎にレベルアップし、相手に寄り添うものに修正できた。

② こどもライブや工作教室で幼児の視点に立った選曲や説明を考え、親や祖父母の  
世代の視点に立って昭和曲を演奏することで、世代間の文化の理解、地域での「共生」を  
実感できるようになった。

③ たとえば、エコあまフェスタで年配の方に「踊ってほしい」と要望された際、部員たちは  
最初は「死んでも嫌だ」と難色を示したが、嫌々練習を始めてみんなで協力する中で、イ  
ベントの中では相手が望むことをすることで喜んでもらえて自分たちも楽しいと理解するよ  
うになった。

④ こども食堂交流会では、最初は小学生はあまり何も考えていないだろうと思い、一方  
的にメニューを考えていたが、そのうち学級会のように対等に話し合ってメニューを決める  
ようになり、最後ははしやぎ回るほど打ち解けることができた。

⑤ 頼まれたこと、思いついたことを、とにかく何でもやってみることで視野が広がり、新し  
い自分の発見や成長につながった。

⑥ 相手の世代の気持ちに立ち、「やりたいこと」から「やるべきこと」を考えることができる  
ようになった。

⑦ 幼児からお年寄りまで、いろいろな人と関わることで、自分たちの世代が世の中に対  
してできること、大人になって役に立てるかなど、様々な世代が社会の中でどのように支  
え合っているのかを考えられるようになった。

⑧ 学校から地域を見ていたのが、地域の中での学校の存在を考えるようになった。

⑨ 音楽などを通じて地域とつながり、「共生」を実感することができた。

⑩ 地域清掃は、感謝されるためにするわけではなく効率を上げるため、あえてコロナ時  
と同じ別日程での分散実施を選んだ。最初は、ふだん騒音で迷惑をかけているからと始  
めたが、今は、当たり前のようにやり、自分たちの街が綺麗になることに喜びを感じている。

⑪ 工作教室では、最初はこどもがかわいいというだけだったが、どうすればうまく教えら  
れるかを考えて工夫するようになり、また、こどもが示す好奇心や瞳の輝きに対して、それ  
に応える使命感を持つようになった。こどもの保護者の方々が温かく見守って下さっている  
ことも感じ取り、世代間のつながりの大切さを学んだ。

⑫ コロナが完全収束し、自分たちが考えていた地域交流を後輩達が実現してくれるこ  
とを望んでいる。

(2) 市民活動団体の活動者

① こども食堂の「うさぎ屋」さんは、2年ぶりに活動と交流を再開することができ、こども  
達が打ち解けたことから、挨拶にも来ていただき、交流活動に対して好意的に受け止めて  
下さったと思う。この受け渡しをしてくださった社協立花支部の方々も、再開後の今年度  
の活動から次年度に向けて提案してくださっている。

② 環境オープンカレッジの皆さんには 2015 年から「エコあまフェスタ」などでお世話に  
なり、2018 年には「エコピープル」に認定していただき、お互いに無理を頼み合う関係を築  
かせていただいている。また、芸鑑との関わりを基に本校環境類型に対しても良くしてい  
ただいている。

今年度も「エコあまフェスタ」のエンディング演奏を任せていただき、部員が踊ったり、手話通訳の方が入ってくださったりと、理想に近い形に持って行けたのではないかと思います。高校生がやることなのでクオリティーが低いことも多いが、「若い人が参加してくれるだけで意義がある」と、深い懐で受け入れて下さり、感謝している。

③ 地域清掃の塚口西住宅の住民の方々は、今年度は初回のみ合同で清掃させていただいた。コロナ禍で分散で何度も行った方が清掃の効率が高いと知ったので、別日程で単独で清掃を行った。住民の方々には長年の取り組みの中で本校を温かく見守って下さっていると思う。

④ 立花地域課の方々にも、数多くのイベントを企画、紹介していただき感謝している。元々最大限の理解と協力を得られているので、特に変化はないが、今後もよろしくお願いしたい。

⑤ こどもライブをさせていただいた幼稚園・保育園の先生に関しては、主催者の立花地域課のアンケート結果によると、対象が違うが、7月から12月の5段階評価が、「幼児が楽しめているか」が平均4.2から5.0、「企画の良さ」が4.2から5.0、「次年度実施」が4.4から4.7とアップしている。

7月に指摘して下さったことを部員たちが改善の工夫をしたことを評価して下さったのかも知れないと感謝している。

### (3) 指導教員の視点

① 答えが一つしかない机の上の勉強ではなく、他のクラブ活動のように決まったルールや大会日程というルールの上を進むのでもなく、場所と時間と対象を示すだけで、あとは自由にイベントを企画運営するという素晴らしい学習の場を与えていただき感謝している。大人になって働くときに最も役立つ能力ではないだろうか。生徒達にとっては、現代の教育に欠けた「創造」、「想像」という部分が学べる貴重な経験ではないだろうか。

② 本年度のテーマは「地球・地域とつながる共生ライブ(平和と平常への光編)」であった。世界の戦争は解決に向かわなかったが、コロナからの解放で平常は取り戻せつつある。高校生の活動で、2年、3年のブランクはリセットに近かったが、生物の歴史において、大量絶滅の後に大きな進化や繁栄があったように、地域交流のDNAは絶えることなく花開いてゆくと確信できた。支えていただいた多くの方々、頑張った高校生、笑顔と元気をくれた幼児・児童のみんなに感謝したい。

③ 次年度は、「見せよう！音楽の力編」という取り組みができればと考えている。環境問題、大阪・関西万博2025、学校PR、…。音楽の力で世の中を元気づけたい。

④ 各団体への感謝は書ききれぬものではない。

「うさぎ屋」さんに関しては、まず、長年続けられている活動自体に敬意を表したい。我々の活動に対しても全面協力いただき、小学生と高校生の両方の成長を見守っていただき感謝しかない。お忙しい中、交流会活動時の見学、活動発表会への出席など、理解を示していただき、来年度も全力で取り組まなければという思いを強くした。社協立花支部の方々にも感謝したい。

環境オープンカレッジの皆さんには、長年温かい目で見守っていただき、革新的な挑戦をさせていただいている。

次年度に対しても要望を出して下さり、聞いた部員は「死んでも嫌だ」と笑っていますが、実現の方向に向かうと思う。高校生と大人のやりたいことは違うが、世代間の歩み寄りがあれば、お互いに楽しめる部分もあると感じることができた。

塚口西住宅の住民の方々に対しては、実際にお会いする機会は少なかったが、コロナで実感した「離れていてもつながっている」という思いで、お互いに街を綺麗にし続けたい。学校が存在するだけでご迷惑をおかけしてしまうことがあるかもしれないが、本校の教育活動にご理解ご協力をお願いしたい。

立花地域課の方々には、多くの学習の場を提供していただき、また、事後アンケートで、詳細な分析データをいただくことで、生徒の成長につなげることができた。幼稚園・保育園の先生に対しては、的確な指摘を下さったことに感謝している。大人が対象であれば、失敗しても、「高校生が頑張ってくれている」と大目に見ていただき、それに甘えることも多いが、幼児に対してはその瞬間、瞬間が教育なので失敗は許されないと重ね重ね重く受け止めた。関わってくださった全ての人々に、今後ともよろしくお願いいたします。

※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。